

交通シミュレーション委員会第3部会第1回議事録

日 時：平成 13 年 12 月 4 日 18：00?

場 所：商工会館 7 F B.C 会議室

出席者 大口 敬〔東京都立大学〕

(敬称略) 辻 光弘〔(株)オリエンタルコンサルタンツ, 同席 竹平 誠治〕

江守 昌弘〔(株)建設技術研究所〕

山下 欣也〔(株)地域・交通計画研究所〕

勝呂 純一〔(株)長大〕

須田 茂登弘〔(株)道路計画〕

深井 靖史〔(株)福山コンサルタント〕

西宮 良一〔? 運輸政策研究機構〕

毛利 雄一〔? 計量計画研究所〕

門司 隆明〔パシフィックコンサルタンツ(株)〕

児玉 和彦〔警視庁交通部〕

吾田 洋一〔独立行政法人北海道開発土木研究所〕

奥嶋 政嗣〔日本総合研究所(株)〕

菅原 宏明〔八千代エンジニアリング(株)〕

桶屋 眞士〔飛島建設(株)技術研究所〕 (名簿順)

委員会資料：シミュレーション委員会 第1回第3部会資料(持参)

追加情報資料(土木計画学スペシャルセッション)(配付)

出席者席次表(配付)

1. 第1回議事項目

参加者紹介

第3部会の進め方

意見交換

次回開催について

2. 第3部会の進め方(部会長 委員)

シミュレーションモデルについて

基本的に標準的なデータセットの検討を行う。

シミュレーションモデルの使い方まで考えたモデル認証制度のあり方をオープンにできるようにすることが主旨。

Validation 用データセットについて

標準データは、複数の観点から揃える必要がある。また、データについてもインプットとアウトプットといった多方面に渡り揃えることも想定している。

あと、対策メニューの事前・事後といったもので、たとえばバス専用レーンとか大規模店完成前後などのデータも入手したい。

データについては委員各位の入手済みデータの紹介や委員各位に入手を要請することもある。

これまでの検討経緯

土木計画学で 1996 年からシミュレーションに関する検討を進めており、現在に至っている（詳細略）。しかし、活動を続けてきたが Validation データ（以降 V d データと称す）は十分に揃っていない。

第 3 部会の進め方

これまで検討してきた内容と重複するが、もう一度何をすべきか議論することも考えている。

データを収集し、その情報を公開する方法や、データの維持方法も議論しておく必要がある。

資料の中でクリアリングハウスの事例を掲載しているが、こういった内容をより充実させることもこの委員会の主旨と認識している。

自主研究であるので、成果のとりまとめ方法について、親委員会からのタスクとして、特に初めから決められているものはない(各年度毎に報告書を提出することが求められているわけではない)。

3. 意見交換

追従挙動のデータ収集が重要ではないか。ミクロな挙動をいかに再現できるシステムがチェックすることが重要と思われる。

追従挙動の制御方法は、シミュレーションごとで違うため、その挙動を制御するパラメータ入力はシステムごとで違っている。そうすると、その検証は、システムに特化したものになる。目標は標準データをオーソライズし、そのデータを用いればシステムがどういった結果を出力するか検証できるようにすることと認識している。

しかし、追従挙動に関係する自由流速度や走行速度分布は、シミュレーションの再現性に大きなところと思われるが。

追従挙動を実態と比べ、その再現をロボットの突き詰めるのは、その場だけのものに近い。むしろ汎用性のあるデータでチェックできるようにする方が重要であろう。

現況再現性のルール作りも、この委員会の役割ではないか。

ルール作りに至るには、やはり V d データを多様な事例で収集し、シミュレーションが

導く結果の特性を実感しておく必要がある。そこまで行き着くには、まだまだ検討しておく課題が多い感がある。

第3部会の目的・目標を、第1・2部会のものと別のものとして分ける必要はなく、Vd用データセットという観点に立脚しながらも、必要に応じて第1・2部会の内容と同じものを第3部会で収集してもいいのではないかと。部会に参加している人・会社も異なることであるし。

第2部会と目的は違うが、実際はオーバーラップしているところが多い。第3部会としては、データセットの方向性をみるといった観点から第2部会の内容と重複しても良い。この点を踏まえ、第3部会独自で進める方向で考えてほしい。

第3部会のメンバー構成は、実務方が多いことから、シミュレーション用データに近いものと思われる。各委員にシミュレーション実施事例を紹介してもらい、取り扱いデータについて議論してはどうか。事例については、施策の事前・事後といったものを紹介してもえたらと思う。

事例紹介については、従前作成したフォーマットがあるので、可能な範囲で委員に記入してもらい、議論してはと思う。

シミュレーションの対象とするエリアをどの程度と想定するかで、必要とするデータも違う。複数の交差点を有するネットの場合、データもODデータである必要がある。VdデータもODデータまで想定してはどうか。

ODデータは、入手された時期に左右されるところも多い。シミュレーションの検証は、ODデータに左右されない範囲のものを最初に進める方が良い。そうすると第一段は、局所的なものを対象にしてはと思う。

本委員会全体の活動目的の一つにシミュレーションモデルの性能検証がある。第3部会の進め方として実態の再現に特化するのではなく、シミュレーションモデルの性能検証にもある程度踏み込んでよい。Vdデータは、検証するために必要であり、データ収集、適用をどうするか議論することが重要である。そのために何が必要で何が足りないかといったところを議論することも共通認識として欲しい。

ここで収集したデータはクリアリングハウスに掲載し、シミュレーションユーザーが、そのデータを用いて検証し、掲示板にその成果や意見を掲載するようなものになればと思っている。

4. 次回開催について

第2回の内容について

事例に関する項目表を各委員に送付するので、可能な範囲で各項目を埋めてもらい、その内容で議論する。

また、データ収集方法についても議論したい。

次回日程

平成 14 年 1 月 22 日(火)13 : 00? とし、会場は決定次第連絡する。